



7月11日 大竹すき紙の原料となるコウゾの整枝作業が行われました。これはコウゾの成長を促し品質を保つために、茎から伸びた脇芽を摘み取るものです。「おおたけすき紙保存会」の呼びかけで集まった16人が、防鹿地区にある約400坪の栽培地で作業に従事。初めて参加した広島市立大学でデザインを学んでいる宮原萌子さんは、慣れない手つきながらも炎天下で汗を流していました。片元勉さん(廿日市市)は、7年前から参加しており「市内の化学メーカーに勤めていたので、ものづくりに興味がありました。こうした作業を経験することで紙づくりの全体の姿が分かります」と話してくれました。ボランティア募集。作業は8月8日、22日の日曜日9時から予定しています。問い合わせは、メールでotake.tesukiwashi@gmail.comへ。



7月15日 救助技術の向上を目指す『消防救助技術指導会』が、消防本部で行われました。毎年開催されていた全国大会が、昨年に続き中止。今年も署内での大会になりました。行われたのは、狭いトンネルを通して要救助者を運び出す『ほふく救出』と、消防庁舎の15mの壁を登る『ロープ応用登はん』の2種目。『5月以降、訓練を重ねてきた成果を期待している』と佐伯消防長。市長も「大きな災害や突然の災害で生死を分けるのは一瞬の判断。訓練の成果を出してほしい」と選手に激励の言葉をかけました。観客が見守る中、それぞれの競技でタイムを競い合う姿が頼もしくありました。



①ブルーハワイのかき氷 冷たくておいしい。②島根県出雲町産の新鮮野菜の販売。どれが食べたいのかな。③ボールすくい。お兄ちゃんは、いっぱいすくったよ。④フワフワアレンジメント。花盛りです。⑤去年はせつかく買った浴衣を

着ることができませんでした。今日がお披露目の廣美千紘ちゃん。年長組とお兄ちゃんの視界くん(小1)。⑥似顔絵を描いてもらっています。かわいく描いてね。⑦大竹生まれ商品に登録された串真由美さん手作りのジャムや農産物を販売。



⑤大竹高校家庭クラブは、代々創作してきた料理のレシピを展示。ネットでも公開中⑥「コロナ禍で演奏機会が無い中、いい経験になりました」と大竹高校吹奏楽部部長の山中詩織さん(2年)。⑦吹奏楽の演奏に耳を傾ける観客。

アゼリアおおたけ コロナ禍でイベントの中止が相次いでいる中、自分たちで何かできることをしたいと呼びかけて開催された『おおたけdeマルシェ』。会場のアゼリアおおたけには、800人を超える人が訪れ、久しぶりのイベントを楽しんだようです。アゼリアホールでは、各団体のステージパフォーマンスのほか、雑貨や農産物などの店が並び、人気商品には行列ができるほど。ステージでは、けん玉発祥の地、廿日市からやって来た砂原宏幸さんが妙技を披露。用意されたけん玉で、会場内の大人も子どもも技に挑戦。時を忘れるほどに夢中な様子でした。イベントを企画した広美裕子さん(油見)は、「大竹を盛り上げようという思いでした。今回のイベントで手応えを感じました。今後子ども向けや、女性向けに何かやっていきたい」と意欲を見せていました。

⑧地元の音楽好きで結成された『ゆー&みー』。トロンボーン、トランペットと一人で吹き分けます。⑨懐かしのヒット曲などを演奏する「ゆー&みー」。



①無重力かと思うようなけん玉の技を見せる砂原さん。②二階堂和美さんが、『大竹で生きている』を元気いっぱい歌唱。「ママさんぶる」のメンバー、広実裕子さん(左)がクラリネットで伴奏。



7/4 SUN



③おおたけ吹奏楽団有志が、「となりのトトロメロデー」などを披露。④重心にかかってけん玉に夢中。

